

ねんど  
2013年度

だい かい ぜんこく やかんちゅうがく こうけんきゅうたいかい ほうこく  
第59回 全国夜間中学校研究大会 報告

1 日目：12月6日（金）

ぜんたいかい  
1. 全体会A（10：30～12：15）

だい かいたいかい やかんちゅうがく げんじょう きょういく かた と きほんてき  
第59回大会は「①夜間中学をとりまく現状から、教育のあり方を問いかえそう。②基本的  
じんけん まな けんり ほしょう やかんちゅうがく みちすじ みつ  
人権としての学ぶ権利を保障しよう。③夜間中学の道筋をあきらかにしよう。」という三つ  
しゅだいていき まく あ つづ どうきょう ひろしま ひょうご なら やかんちゅうがくせい にん せいかつたいけんはつびょう  
の主題提起で幕が開いた。続いて東京、広島、兵庫、奈良の夜間中学生5人の生活体験発表  
おこな  
が行われた。

ねんまえ ちゅうごくざんりゅうしや こ おつと おさな こ つ にほん き りゅう がくれいき  
20年前、中国残留者の子である夫と幼い子どもを連れて日本に来た劉さん。学齢期は  
ぶんかだいかくめい じ き がっこう べんきょう じょうきょう ほん よ りんこく  
文化大革命の時期で、学校で勉強ができる状況ではなかったそうだ。本で読んだ隣国の  
れきし じだい い ひと しょうげん とお むね せま こつか しそうとうせい おそ  
歴史が、その時代を生きてきた人の証言を通して胸に迫ってくる。国家による思想統制の恐  
ろしさを感じ、日本が今進もうとしている危険な状況を何とかしなくてはと強く思った。  
りゅう こ きょう かしよ にほんご べんきょう こ なや  
劉さんは子どもの教科書で日本語を勉強したが、子どもとのコミュニケーションに悩み、  
にほんご まな す な とち はな どうきょう で き やかんちゅうがく であい いま  
日本語を学ぶため、住み慣れた土地を離れ東京に出て来た。そこで夜間中学と出会い、今  
せいかつ せいきょう しごと なかま ちから かんが どうほかい つうやく  
は生活クラブ生協の仕事をしたが、仲間の力になりたいと考えて、同歩会の通訳や  
そうだんいん しごと かつやく  
相談員の仕事でも活躍されている。

まんしゅういみん こ う ちゅうごくじん けっこん むかい にほんじん はげ  
満州移民の子として生まれ、中国人と結婚した向井さんは、日本人ということで激しい  
しょうがっこう ねん さき きこく ははおや かいご かぞく にほん きた  
いじめにあい、小学校を1年でやめた。先に帰国した母親の介護のため、家族で日本に来た  
おつと にほん せいかつ りこん ひろしま やかんちゅうがく よ か まな しごと  
が、夫は日本の生活になじめず離婚。広島の夜間中学で読み書きを学びながら、仕事をリ  
ストラされたのをきっかけに、人の為に役立つ仕事がしたいと考えて、ホームヘルパーの資  
かく と ないこうてき せいかく ひと やく しごと たの  
格を取った。ずっと内向的な性格だったが、人の役にたつ仕事にたどりついて楽しい  
はな むかい ふか じしん み かがや おお こんなん の こ もじ ことば  
と話す向井さんは、深い自信に満ち輝いていた。多くの困難を乗り越えて、文字や言葉を

かくとく じぶん じんせい つづ おおぜい まえ はつびょう いた ふたり どりよく むね あつ  
獲得し、自分の人生を綴り、大勢の前で発表するまでに至ったお二人の努力に胸が熱くな  
り、流れる涙を抑えることができなかった。学びの中で自分を解放できただけでなく、社会  
なか じぶん いぼしょ み じぶん ちから ひつよう ひと はたら よろ みいだ  
の中に自分の居場所を見つけ、自分の力を必要としている人のために働く喜びを見出した  
おふたり まな ほんしつ おし き  
お二人から、学びの本質を教えていただいた気がする。

ちゅうがく りょうしん な あね せわ さい くつ かこう しごと い  
中学で両親を亡くし、姉の世話になりながら、14才から靴のミシン加工の仕事で生きて  
きた中崎さんは、同じく家庭の事情で十分に学べなかった夫を説得し、2年前にご夫婦で  
ひょうご やかんちゅうがく にゅうがく もじ か きょうふ つら おも  
兵庫の夜間中学に入学した。文字が書けないことが恐怖でたくさん辛い思いをしたが、  
いま じぶん おもい もじ ことば か あらわ ほんとう しあわ はな じこ  
今は自分の思いを文字で、言葉で書き表せるようになって本当に幸せだと話された。事故  
はんしんふずい むすこ じぶん いっしょうけんめい い さま み ひと  
で半身不随になった息子さんに、自分たちの一生懸命な生き様を見せたい。「人はいくつ  
になっても成長できる。いつまでも自分という原石を磨いていきたい。」という彼女の力  
つよ ことば いま わたし こころ ふか ひび  
強い言葉が今も私の心に深く響いている。

なら よしの じしゅ やかんちゅうがく ねんせい おおむら わたし としよ  
奈良の吉野自主夜間中学13年生の大村さん。「これが私の図書カードです。」とカード  
をかか み とき えがお わす じ まな はじ じぶん しんせいしょ か て  
を掲げて見せてくれた時の笑顔が忘れられない。字を学び、初めて自分で申請書を書いて手  
にした図書カード。夜間中学生には苦勞して勝ち取ったそれぞれの‘はじめて‘があるだ  
ろう。かいじょう あたた はくしゅ つつ じしん どりよく て としよ  
会場は温かい拍手に包まれた。ご自身の努力によって手にした図書カードで、これ  
からもたくさん本を借りて読んでほしい。私たちがスタッフにとって大切なのは、知識を教え  
ることではなく、ひとりひとりも ちから こころ しん うば と  
るのではなく、一人一人の持つ力を心から信じることだろう。奪われてきたものを取り  
もど とも たたか なかま む あ よろこ きょうゆう かんけい おも  
戻すために、共に闘う仲間として向き合い、喜びも共有できる関係でありたいと思う。

にほん き おつと わか こ くるう  
フィリピンから日本に来て、夫と別れ、子どもたちとのコミュニケーションに苦勞した  
というマティルデさん。ちゅうごく きこくしゃ たこく にほん き かたがた ことば つう  
中国からの帰国者、あるいは他国から日本に来た方々は、言葉が通  
じず、もじ よ ふあん きんちよう くわ かに こども かいわ くるう こ  
文字が読めない不安や緊張に加え、家庭でも子どもとの会話に苦勞されている。子  
どもたちはすぐに日本語を身につけるが、おとな かんたん こ 子どもたちに伝えた  
いことを言葉にできない辛さを 劉さんも語っていた。マイノリティの立場にいる人にとっ  
て、ほん しゃかい つめ い たよう ぶんか ひとびと あつ ちが みと あ  
て、日本の社会は冷たく生きにくい。多様な文化をもつ人々が集まり、違いを認め合いなが  
ら とも まな ば やかんちゅうがく しゃかい はっしん おお  
ら共に学ぶ場である夜間中学から、社会に発信できることは多いのではないか。マティル

ダさんは子育てを終え、今、日本語検定を目指して自主夜間中学で学んでいる。夜間中学は故郷の大家族のようで懐かしいと言う。

遠友塾に集う人々も多様になっている。一人一人の文化を大切にしながら、ぶつかることを恐れず、お互いを理解する努力を続けていきたいと思う。(横山 晴美)

## 2. 全体会B (13:15~15:45)

### 1) 全国自主夜中からの発信

北海道の自主夜間中学の3校の代表者と西和自主夜間中学の発表がありました。

#### ・札幌遠友塾 (北海道に夜間中学をつくる会代表 工藤慶一さん)

札幌遠友塾に通い始めた頃のある受講生の表情は、硬く肩に力が入っていました。時がたつにつれ一生つきあえる仲間ができ、表情が和らぎニコニコになりました。「人前で話せるようになりました」「困っている人に温かい目を向けられるようになりました」「過去ばかりを振り返らず、未来を見ていこうと思いました」など受講生のエピソードが紹介されました。温かい目を向け、耳を傾けることにより感受性が豊かになります。そして、自分の隠れた能力に驚きます。

札幌遠友塾はスタッフと受講生と一緒に授業を作り上げます。先生と生徒の立場ではなく、対等な信頼関係を築いています。そんな場所です。

“たくさんの力ですばらし世界を作るため、夜間中学の輪を広げましょう”

#### ・函館遠友塾 (スタッフ 野口さん)

函館遠友塾の開校のお話から始まりました。札幌遠友塾のスタッフをしていた代表の今西さんが函館への転勤により、札幌遠友塾を離れ函館遠友塾を開校して5年目を迎えました。スタッフ20名・生徒37名で4月にスタートしました。10月には50名を超え、20名ほどは翌年にお願いました。開校時は、1学年のため1部屋でよかったのですが2年目・3年目となり使用する部屋数の確保が困難になってきました。半年前から予約可能ですがその時にはすでに予約が取れず、やむを得ずほかの曜日に変更することもあります。

月に1回スタッフと受講生10名ほどで作っていた給食はとても好評でした。しかし、ほかの地区の学校給食から食中毒がでたため廃止となりました。

教科は、国語・数学・理科・社会・英語の5教科です。数学と英語は、補習をしている方もいるようです。英語だけ受ける人もいます。今まで2回卒業生を見送りましたが20名ほどは聴講生として現在も通われています。定時制高校や老人大学に通われている方もいます。高齢の方も元気よく登校され、老人パワーを発揮され、私たちスタッフも元気をもらっています。

### ・釧路くるかい（代表 賀根村さん）

釧路くるかいは、学習者25名、支援者30名。市の福祉センターを無料で借りています。始まりは、映画のポスターを教育大学に貼らせていただいて共感していただいた先生との出会いでした。2009年5月、学習者50名、支援者50名（大学生含む）により開校しました。二部にわかれ、マンツーマンでの授業でした。2年目からは、“横との繋がりを”作ってもらいたいという願いからグループ学習に変更しました。バス遠足・室内運動会・学習者さんが講師になり特別授業も開いています。（水墨画・絵手紙・押し花・コーヒーの入れ方など）

土地柄により冬場は通われる方が減ります。私たち支援者に何ができるのでしょうか？支援者の人員不足など今後の課題はありますが、ほかの地域の自主夜中の皆様と協力し、いろいろのところへ発信していきたいと思えます

現在の子供たちの学力低下に危機感を募らせています。教育を問い直し、求める心・ひらめき・感動の3つが伴って学ぶ力がうまれてくるのではないのでしょうか。出前講座などを開き地域とつながり、子供たちがいきいきと学べる環境が広がることを願っています。

### ・西和自主夜間中学

1年の準備期間を経て1998年に開校しました。16名の生徒数から始まりましたが、一時はスタッフを含め100名ほどになったこともありました。現在は20名の生徒と火曜日と金曜日（18：00～21：00）にマンツーマン形式で授業をしています。

ろうにやくなんによと がいこく わか かつ き じよせい むすめ  
老若男女問わず、外国ルーツの若い方もいます。フィリピンから来た女性とその娘さん  
だい かい ひと かつ そつぎょう まご  
二代にわたり通われた人もいます。お母さんは卒業しています。おじいちゃんとお孫さん  
かい かつ まご じゆぎょう お かつ  
と通われている方もいます。このお孫さんは、授業が終わるとすっきりした顔をして、お  
じいちゃんと手をつないで帰ります。

じぶん まな おな くに かつ つた にほんごけんてい う べんきょう いよく  
自分が学んで同じ国の方に伝えたい。日本語検定を受けたい。勉強する意欲がすばらし  
く、私たちも意欲がわきます。“教える”と“教えられる”ではなく、対等な関係を結ん  
で今日を迎えています。生徒さんの人生や問題や悩みを背負っています。

い まな ぼ わたし じしゅやちゆう さいご ことば  
“生きなおし、学びなおしの場こそが私たち自主夜中でないでしょうか”最後のこの言葉  
がいんしょうてき  
が印象的でした。

## 2) 奈良からの発信

げき うみ み けんきゅうたいかい ふ かつ みらい みす  
「劇～海は満つることなし～」この研究大会や、これまでを振り返り、そして未来を見据  
えた内容の劇でした。自主夜間 中学の関係者、教員、生徒が一团となり演じていて、時に  
わら げき つう かいじょう かつがた ところ つた すがた かんどう  
は笑いありの劇を通じて、会場の方々の心に伝えたいという姿にととも感動しました。  
やかんちゅうがく と ところ ふか のこ ほうこく  
“夜間中学ってこうなんだよ”と問いかけられているようで心に深く残る報告でした。

もりかわ ゆきえ  
(森川 幸恵)

## 4. 教科別分科会 (15 : 45 ~ 16 : 45)

- 日本語 A (入門) : テーマ「夜間中学校における日本語学習を考える」

はつあんしや おおつきまさひろ あまがさきしりつなりよしちゅうがっこうやかんがつきゅう たけざわとしお おおさかしりつてんのうじちゅうがっこう  
発案者 : 大槻政宏 (尼崎市立成良中学校夜間学級) / 竹澤俊男 (大阪市立天王寺中学校  
やかんがつきゅう  
夜間学級)

### (1) 引揚帰国・新渡日者委員会の活動報告

せいと かん ひきあげきこくしや しんにゅうせい げんしょうけいこう いっぽう しんとじつしや せいと びぞう  
生徒に関して: 引揚帰国者の新入生は減少傾向にある一方、新渡日者の生徒は微増である。  
しんわにちにちは、20歳未満の若年層が増加傾向にあるが、中国からの帰国者一世は、70歳を超  
こうれいか ちゅうごく きこくしや いっせい こうれいしや にほんご しゅうとく おお こんなん かつ  
し高齢化している。中国からの帰国者の一世の高齢者は、日本語の習得に大きな困難を抱  
えており、夜中を卒業しても日本語が十分とは言えない。また、帰国者の二世は行政か

らの支援がなく生活保護に頼らざるをえない生徒が多い。新渡日者は日本語以外の授業は欠席、長欠の傾向があり、各夜中とも悩んでいる。

引揚帰国・新渡日者委員会の活動について：引揚帰国・新渡日者委員会（以下、委員会）は厚労省との話し合いに参加している。委員会は、引揚帰国者・新渡日者の日本語力を伸ばす教材の研究・指導方法の錬磨が喫緊の課題と考えてはいるものの、教員は、日本語教師としての専門教育を受けているわけではなく、暗中模索の中で活動しているのが現状である。

## (2) 夜間中学校における『日本語学習』を考える

夜間中学校における「日本語学習」で大事にしていることを以下の4点に整理している。

①ただの日本語取得、会話力の向上に終わらない。/ ②学ぶことで、自分の人生を肯定し、自信と誇りを持って生きてゆく力を身に付ける。/ ③学ぶことで、日本社会や世界への認識を持ち、社会を変えてゆく力をもつ。/ ④夜間中学校、教師側の意識転換と変革こそが課題である。

## (3) 琴城分校における「日本語学習」で育てたい力

日本語を母語としない引揚者、新渡日者生徒の急増の中で、その生徒たちを対象とする「日本語基礎クラス」が2009年4月に新設されて5年目を迎える。今年度、「日本語クラス」と従来からの「識字クラス」をトータルに見据えた「日本語学習」の意義を次のように整理している。

### [琴城分校における「日本語学習」で育てたい力]

①：理解できる日本語の語彙を増やし、日本語のしくみ（文法）への理解力を育てる。→《語彙力・文法》/ ②：学校内外の仲間や他者と口頭で、対等にコミュニケーションする力（意思の疎通、相互理解さらに心の通い合い）を育てる→《自ら対人交流をしようとする力》/ ③：日本語の文章を読み取る力（読解力）を高め、感受性や想像力を育てる。→《読解力・感受性》/ ④：日本社会や母国さらに世界の現実やそこでの不合理や差別について認識し、それに対する考えを表明する力を育てる。→《社会認識》

⑤：自分が琴城分校で学ぶ意味を、自らの人生を見つめる中で、語ることを続けることを通して明らかにし、それによって、自分の人生を肯定し、誇りを持ち、前向きな社会参加（社会変革）への勇気と力を育てる。→《自己肯定、社会参加への力》

（横関 理恵）

・日本語B（識字）：テーマ「文を書く・つくる・授業を語る」

①大阪府から大阪市立天満中学校夜間学級（「文を書く」）②堺市立殿馬場中学校夜間学級（「文を作る」）、③八尾市立八尾中学校夜間学級（「授業を語る」）の3本の報告をもとに議論が進められました。

①は「夜中生のつぶやき」をもとに作文指導を行った実践。自分の思いを自分の言葉で書くことが不得手な生徒が多いことを知り、「聞き書き練習」と「夜中生のつぶやき」とを交互に行うことからはじめ、夏休みの課題「つぶやき作文」を経て「手」をテーマとした作文にとり組んだ経緯が報告されました。この実践から、何よりも「繰り返し行うこと」、その「積み重ねが力をつける基本」であること、その中で、自分の言葉で書くことや、工夫を加えることができるようになっていく姿を、具体的事例で説明されました。

②は、外国人の生徒がほとんどを占めるクラス（82%）の実践。必ずしも教科書にこだわらず、実情に応じた自主教材（天声人語や新聞のコラム等）を用い、音読からはじめています。語句の意味、読解、漢字の読み書きを重ねた上で、川柳作りに取り組み、「つくる」ことを通して自分の言葉で表現する喜びを感じ取ってもらう実践が報告されました。

③は、「識字って何？」という問いかけから始まりました。夜間中学の日本語授業そのものの持つ意義を問いかけるものです。文字を奪われた人生、ダメというメッセージを受け続けた人が、文字を獲得することによって、本来の自分を見つけて誇りを回復し、物がよく見えるようになり、視野が広まっています。肩ひじはって生きてきた人が、夜間中学ではありのままの自分を出すことができ、自分で自分をゆがめていたものから解放され、人の前に立てるようになってゆくといいます。「教材も内容も自由」であったことから、自分が

感動した文学教材を一緒に読んでいこうと、週2時間、15回の授業を組み立てた実践報告でした。いずれも授業時間数は週に二日～毎日行われており、国語の授業が月に3～4回しかない遠友塾で同じ内容をするのはむずかしいですが、多くのヒントは与えられました。

(遠藤知恵子)

## ・数学科

大阪、奈良の夜間中学より用意された資料に基づき話し合いが進められました。

奈良の春日中では週5日、1日4時間の授業時間の中、数学は1週間に1時間だけ、授業内容も計算が中心になるとの事だった。中国、韓国、朝鮮等の在日外国人生徒が多数をしめているため、言葉の難しい人が多く応用問題は内容が理解しがたいとの事でした。

畝傍中では長さの単位、重さの単位、小数や百分率、直接税や間接税等の授業をしていく中、3・11の震災の影響をうけミリシーベルトやマイクロシーベルトの放射線の単位勉強がしたいとの要望がだされたとの事でした。大阪の長栄中では計算が主になりやすいが、棒グラフなどを使うことで文章と関連づけるようにしているとのこと。

高校へ進学した子が、理解できてなかった連立方程式が解けた時見せた喜び、その達成感を大切にしたいとのことでした。

守口中では日本語の理解度によってクラス分けがされているが、プリントが○でうまる事で見せる生徒の嬉しそうな表情を大切にしたい。

吹田市の中 学では使用量によって変わる公共料金のしくみの例題として、自宅の

水道料金表を教材に使っていました。生徒にとっても身近な具体例として分かりやすいと思われました。

それぞれの学校の生徒の生活環境や立場、個々人の理解度により授業の難しさが感

じられる数学教科部会でした。

(吉田 恵美子)

## 5. 学校見学・公開授業：奈良市立春日中学校夜間学級

今回の大会の学校見学では、遠友塾の皆さんと一緒に、奈良市立春日中学校夜間学級を訪問した。最初に、日本語の初歩を学習しているクラスを参観した。来日間もないと思われる3人の生徒に1人先生がついて、ほぼ個別指導で日本語を教えていた。プリントと辞書を使用しながら、ゆっくりと日本語を学んでいる様子だった。私が日本語の学習について尋ねるとたどたどしい日本語で「カンジハムズカシネ」と笑って、答えてくれた。それとなりで、ほほえみながら、言葉を発せず、ただ黙って私たちをみている生徒さんもいた。おそらく、来日したばかりで日本語を全く話せない生徒や、漢字はわからないけれども、日本語の簡単会話ができる生徒がこの学校に通っているのだろう。

このような生徒さん一人ひとりに対応できる教材を教員は用意して、教育実践をしているのだろう。廊下では、就学前くらいの子どもが楽しそうに走りまわっていた。おそらく、生徒の子どもだろう。仕事を終えて、子どもを連れて夜間学級に来ている生徒さんがいるのだろう。とても賑やかな雰囲気の学校だと思った。

授業見学が終わると、食堂にみんな集まり、春日中学校のみなさんと参加者との交流会が始まった。食堂では、春日中学校の前身である「うどん学校」の映像が流されていた。テーブルにつくと、すぐに大きなキツネの入ったうどんを生徒さんが運んできてくれた。続いて、おいしそうな真っ赤なキムチも運んできてくれた。非常においしいキムチでおかわりをするほどだった。うどんをすすりながら、食堂にあるテレビで「うどん学校」の映像を見た。それによると奈良市立春日中学校の前身である「うどん学校」は岩井好子先生らによってある正強学園高校の食堂で開講されたそうだ。当時、夜間に学ぶ生徒のために、教師らがうどんを持ち寄り、夜間の授業の合間に、生徒たちと食べていたそうである。そういった経緯もあり、春日中学校の前身の学校の名前は「うどん学校」という名前がついたようである。「うどん学校」を前身にもつ春日中学校で、給食にうどんがだされているのはそういう経緯がある。うどんでおなかがいっぱいになったところで、参加者みんなまで歌を歌って交流した。歌の合間にみんなで手をつなぐ場面が印象に残っている。みな

さん、歌の合間に見えるみなさんの笑顔がステキだった。一生忘れないでおきたいと思え  
る素敵な学校だった。遠友塾でも、給食にうどんがでてきたら、受講生さんもスタッフ  
も喜ぶだろうなと想像した。いつか実現できたらよいと思った。

よこせき りえ  
(横関 理恵)